

タマヨ・ルイス エフライン・エドアルド「フットプリント（影響を与える範囲）全体に対する私達の責任を認識しよう」

フットプリント（「あしあと」、狭義には環境負荷、広義には影響を与える範囲）という言葉は、しばしば、環境、特に産業や交通などから排出される温室排気ガスに使われます。私はこのフットプリントという言葉をもう少し広い意味でとらえ、それに伴う責任について考えてみたいと思います。毎日の生活のフットプリント全体とは、他の人々や環境とのかかわり合いのすべての結果を合計したものです。言い換えれば、私達が生きてゆく上で必要としたもの、及び排出したものの全ての合計です。例えばエネルギー消費をインプット、その生産時に排出された二酸化炭素をアウトプット、消費する食糧をインプット、その食糧生産に伴う環境負荷をアウトプット、消費するものをインプット、それに必要な素材とエネルギーをアウトプット、さらには、学ぶことをインプット、学んだことをベースにした行為はアウトプット、などです。

各人のフットプリント全体にはプラスとマイナスの効果があり、結果として環境や社会を改善したり、負荷をかけたりします。フットプリントに対する責任を意識することは重要です。なぜなら私達のフットプリントから発生する効果に気付かなければいけないし、全ての決定には選択の余地があるからです。即ち私達は、フットプリントを意識し、私達の決断がいかなる効果をもたらすかを認識することによって、フットプリントを管理することが出来るのです。これらの理由から、誰もが自分自身のフットプリント全体と、それに対する責任について考えることの重要性、そしてそれを管理する方法についての教育を受けるべきだと思います。

世界の人口は、過去 300 年で約 10 倍となり、2013 年には 70 億人に達し、2050 年には 90 億人となるといわれています。人口の増加に伴い、産業活動も増加し、資源の消費、廃棄物の発生も同様に増えています。最近では人間の活動に伴う気候変動に関する情報が溢れ、多くの議案、方策、問題解決を目指すプロジェクトが生まれています。気候変動は人類が直面する問題のひとつですが、持続可能性を脅かす別の問題も数多くあります。それらは私達がいかに資源を消費し、廃棄物を発生させるか、すなわち私達のインプットとアウトプットに関係しています。

2014 年に世界の人口の 10%にも満たない先進国がしているのと同じように、70 億人が資源を消費し、廃棄物を発生させたならば、地球は持ちこたえられません。しかも残りの 90%の国々は発展するに従い、先進国と同じような傾向をたどっています。一次資源の消費、発電量、廃棄物の発生、生産にあたって異なるいくつもの資源を必要とするものの消費、温室ガスの発生、牛肉や海洋を涸渇させる様な海産物の食習慣などなど。

私は、地球の天然資源や海の生き物を涸渇させないために、又、持続可能性を脅かすよ

うなあらゆる種類の廃棄物の発生を減らすために、先進国、発展途上国いずれの国々においても、絶対に必要な資源のみを使って生活し、マイナス面のフットプリントを減らすことを提案します。

このためには、「あなたが何かをする前に、地球上の他の 70 億人があなたと同じことをしたらどうなるのかを考えてください。」という簡単な生活習慣が役立つと思います。これはある行為の 70 億倍の効果を考えることです。例えば、リサイクルをしないで無意識にゴミを捨てる前に、環境に配慮しないで生産された安価なものを無意識に買う前に、歩かずに自動車を使う前に、電気をつける前に、などなど。

人口が多いということが、全体として人類存続の危機に陥りかねないほどのマイナス効果を生むという同じ理由で、もし私達全員が自分自身のマイナス効果のフットプリントを減らすことができれば、劇的にプラス効果へ変化させることができます。キーポイントは人々にいかにそこに気付かせ、その方向に持って行くかです。

人々はモノを「買うことが出来る」と思うと、資源やモノを「消費しても良い」、すなわち「買うことが出来る」イコール「しても良い」と勘違いします。問題は、ほぼすべての生産物、あるいは抽出された資源には、表に出ていないコストがあるという事です。これらのコストは資源や物質の生産にかかわるコストの一部ですが、値段には含まれていません。この典型的な例が児童労働、労働搾取、あらゆる種類の汚染、(森林の) 濫伐などの社会コスト、環境コストです。これらのコストが価格に含まれれば、価格は間違いなく上がります。問題は買えるか否かではなく、何かを買う、あるいは資源を使うとき、環境や社会に責任を持つか否かです。

給料は外に現れるコストであるビジネス活動につながっていますので、何かを買えるか否かとは関係ありません。私たちの日常生活において、資源を慎重に、意識して使うことが主たる決定要因であるべきなのです。ある商品を購入することは、それを生産する産業をサポートし、生産を続けてほしいというメッセージではありますが、同時に、責任ある消費は社会と環境を意識した産業のみを促進させる原動力となります。重要なのは誰もがこのことに自分自身でコミットするかどうかであり、そこが分岐点となります。すべての人が同じ土俵で行動出来れば良い結果につながるでしょう。

私自身、日常生活で消費を減らす、CO2 の発生を減らす、地元の食品を買うなど環境負荷のマイナス面を減らしています。その効果をあげるために、いろいろな方法があることはわかっていますが、不要なことはやめるということは非常に極端になる場合もあり、限界があることもわかりました。どんなライフスタイルにも最小限のマイナス面の環境負荷があります。生きるために必要な最小限まで環境負荷を削減するというのであれば、私はもっと減らすことが出来るでしょうが、自分にとって大切なこと、好きなことを削減することは出来ません。多分、誰もがみつけるべき大切なポイントは自分の好むライフスタ

イルと、環境負荷のマイナス面を最小限にするベスト・バランスを見つけ出すことだと思います。私はこの方向を探り、押し進めています。そうすることにより、困ること、あるいは限界が分かります。

消費、あるいは富を得るという点で、自己本位であることが問題の原点のひとつであるとわかりました。自分本位の行動は、生きるうえでの人間の本能なのでしょうか。それとも、社会に出て学んで進めてきたことなのでしょうか。あるいは部分的にそのいずれかだとしても、それを再考すること、そして再考した結果が、この問題を解決する一助となり得るでしょう。相互依存の関係にある人間の行為と資源は無限ではないという事を無視するのは、自分本位の問題点です。自分本位の行動が、世の中の無意識のマイナス面のフットプリントを発生させ、富や収入の分配の不均衡をもたらします。少なくともある程度は、社会的な価値観が、かかる行為のモチベーションとなり、それを促進していることから、社会的な価値観を変えることが、変化への最も力強い推進力になるとの結論に至りました。消費を増大させたり多くのモノを集めたりするのではなく、自分自身のフットプリント（影響を与える範囲）のマイナス面を減らし、不公平を是正する努力を促すような新しい社会的な価値観が必要とされています。

資源のインプットと私達の行為による廃棄物のアウトプットは計算しやすく理解しやすいと思います。大規模な人口のなか、このインプット／アウトプット問題が環境面、持続可能性、そして、それに対して私達が何かをしなければならないという一連の結果につながることは明らかです。私達のライフスタイルに合ったベストバランスを探し、マイナス面のフットプリントを減らす、あるいは最小限にするという考え方に一致する新しい価値観を見出す、これらが本論のもうひとつの提案です。

そこには抽象的なタイプのフットプリントとそれに付随した責任があります。社会の一面である、例えば知識、性別、教育、信仰、自由、革新、グローバル化、伝統などについても、私達は考えなければなりません。結論として私達の行為の結果としてのフットプリントは、それが有形か無形か、積極的か消極的に係わらず、いずれにせよ人類の進歩や持続可能性に影響します。皆さんが行動する、しないに係わらず、フットプリント全体に対する私達の責任に気付き、それに対して生活のなかで何が出来るかを探し求めることが大切なのではないのでしょうか。